

小さくても輝く 明和のまちづくり

～これまでの明和町の全貌をお伝えします～

このたび、上毛新聞社の茂木氏と平山氏の両記者による「小さくても輝く 明和のまちづくり」と題した連載取材を受けました。近年における明和町の著しい開発の進展にご注目いただき、町の開発担当者への取材を通じて、計5回のシリーズ記事として掲載していただきました（5/27～5/31の上毛新聞に掲載）。

この記事の背景や裏話について、現場の責任者である私から皆様に本コラムを通じてお伝えします。

【快進撃の始まり】

2005年夏、恩田町政がスタートし、私は恩田前町長の選挙事務長として、まちづくりに情熱を注いでいました。



【橋上化前の古い川俣駅】

明和町は、東に東北自動車道、中央に東武伊勢崎線、西には国道122号線と、交通アクセスに優れています。恵まれた立地を背景に、町をどう活性化するかが大きなテーマでした。

恩田町長は、川俣駅の橋上化を公約に掲げて当選し、その実現に向けて進み出しました。町議会議長だった私は、地元ワークショップを立ち上げ、駅前づくりの検討を始めました。計画が具体化する中、恩田町長は病に倒れました。町は慌てて次のリーダーを探すこととなります。

【誰が司令塔になるか】

当時、私は議長として、当時の副町長や都市建設課長と一緒に、笹川代議士や国交省へ補助金交渉等に行っていました。そ

のせいか、周囲から

「橋上化が目前に迫っている今こそ、あなたが責任を持って進めてほしい」との

声を多数いただき、



【橋上化後の現在の川俣駅】

2015年4月の町長選に立候補しました。

私は元不動産業者ですから、町開発の開発構想はすでに頭の中で描いておりました。町長として、私は事業の司令塔となる覚悟



を決め、不動産業は妻と息子に任せ、明和町の大改革に全力を注ぐ決心を固めました。

そして、初当選以来、早くも10年が経過しました。

【駅の橋上化がすべてを変えた！】

川俣駅の橋上化には、国交省ならではの狙いがありました。橋上化して東口が誕生すると、国交省から「コンパクトシティ構想の実現」が求められました。

コンパクトシティ構想とは、生活に必要な施設を一か所に集約し、利便性と効率性を高める国のまちづくり政策です。明和町は国の認可を得て、2019年より5年計画でこの構想を手がける事になりました。

【なぜ、まちづくり会社が必要なのか】

コンパクトシティ構想を実現するには、町の資金だけでは限界があるため、民間資金の導入が不可欠でした。官民連携（PFI）による事業展開が求められるなか、町に魅力を感じ、共に事業を行ってくれる企業を探すため、明和町に温泉を掘削し、それを活用した病院・ビジネスホテル構想を立ち上げました。こうして、「株式会社 邑楽・館林まちづくり」が設立され、温泉も掘り当て、事業は一步ずつ前進しました。壮大なる夢は幾度となく反対の嵐に遭いながらも、着々と現実のものとなっていきました。

※「株式会社 邑楽・館林まちづくり」という社名は、町単独では資本調達に限界があったため、広く邑楽郡や館林市、さらに東京都や埼玉県
の企業からも出資を募り、
現在約3億4千万円の資本が集まっています。



【駅前掘削した明和温泉】

【医療複合ビルに病院進出が決定】

ある日、館林・邑楽医師会の理事である竹越亨先生が町長室にお越しになり、「館林市の海宝病院を明和町に誘致してはどうか」と話がありました。私は「竹越先生が仲介してくださるならぜひ！」と答えました。

すると翌朝、海宝先生ご夫妻が町長室にお越しくださり、病院移転に当たり「病院名は町長の好きな名前がいい」とおっしゃいました。私は、海宝先生の本気度を確信して、全力で何とかしようと思いを固めました。

海宝病院の全面移転に加え、町の保健センターの統合、災害避難整備として駅とベデストリアンデッキ（高台歩道）を繋ぎ、さ



らに避難所、小児科、薬局を取り入れた施設の計画には、莫大な資金が必要でした。町は国庫補助事業と補助裏起債と自己資金

【メディカルセンタービル A 館】

で対応しましたが、単独では限界があり、官民連携（PFI）による資金協力がなければ、立ち上がらない計画でした。

【コストコが明和町に進出】

明和町にコストコが進出する話が持ち上がったとき、誰もが「明和町に来るはずない」と思っていました。群馬県の大澤正明前知事も当初は信じてくれませんでした。

しかし、数々の困難を乗り越え、2023年4月にコストコ国内32番目の店舗が明和町にオープンしました。ランドマークとなったコストコがオープンした途端、テレビ取材が殺到し、多くの民放でとりあげていただき、明和町は「コストコのある町」として全国的に知られるようになりました。

同時に、私は明和町民として誇れる「シビックプライド」が芽生えました。



。「シビックプライド」とは、町に対する誇り、愛着及び共感を持ち、町のために自ら関わっていかうとする気持ちのことです。

人口減少や少子高齢化社会を迎えるにあたり、町民の皆様の本町に対するシビックプライドを醸成することは、定住人口の確保のほか、町民のまちづくりへの参画意識が高まり、協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの活性化に繋がります。

【ビジネスホテルの誘致】

5年計画で進めていたコンパクトシティ構想の最終章として、天然温泉付きのビジネスホテル「HOTEL R9 Premium 川俣駅前」が開業を控えています。

明和温泉「美人の湯」を大浴場に活用し、災害時は避難所としても機能するように駅とペDESTリアンデッキ(高台歩道)を繋



ぎ、非常時には最低限の電力や水が賄えるように設計されています。

ホテル経営をしていただく(株)デベロップ様は、本来は移動式コンテナホテルが主流なのですが、岡村社長と色々なお話しをする中で意気投合し、移動式ではなく鉄筋コンクリート構造で建築いただくことになりました。駅・ホテル・病院が高台歩道で繋がり、大規模災害時対応施設ができあがりしました。

この「HOTEL R9 Premium 川俣駅前」は、今夏開業予定です。

【暮らしを支える新拠点が次々登場！】

他にも、9月には、メディカルセンタービルC館が民間資本により開業予定です。健診センターにはレディースクリニック、整形外科、皮膚科、薬局などが開設されます。また、国民健康保険の被保険者と後期高齢者のかたは、人間ドックを受けるのに約1万円の個人負担(申請が必要です)で受けられ



【メディカルセンタービルC館完成予想図】

るよう体制を整えております。町民の皆様にとって健康診断や日常の医療がもっと身近で便利になります。

さらに、長野県発祥の人気スーパーマーケット「ツルヤ」が、コストコの南側に今秋オープン予定です。「ツルヤ」と言えばオリジナルブランド商品（ジャムやドレッシング等）が人気です。ご家族で買い物を楽しめる新たな拠点が増えます。

【工業団地もあちこちに誕生！】

町の財政力強化のため、西地区に加え、東地区にも工業団地の整備を進めております。明和町として財政基盤を固め、将来にわたって安定した運営ができる町を目指すことで、税収や財政力は着実に向上しています。

それは、町民の皆様が地元で働ける職場があり、憩いの場としての公園があり、冷暖房完備の体育施設が整い、家族で買い物や食事を楽しめる場所があること。また、教育や福祉の充実、医療も地元で受けられる体制、そして東京都内へ電車や車でも1時間程度とアクセス良好な立地。まさに、すべてが揃った「オールインワン」の町が着実に形になりつつあります。

ぜひ、その実感を町民の皆さまにも味わっていただきたい。それこそが、私の目指す「オールインワンの明和町」です。

群馬県の片田舎でありながら、悠々自適な生活が実現できる町。令和6年度には、群馬県内35市町村の中で唯一、地方交付税の不交付団体となるまでに成長いたしました。これからも、さらなる財政力指数の上位をめざして頑張ります。



【住宅用地の確保へ向けて】

多くの企業や商業施設の進出により、明和町に住みたいという希望の声が増えています。しかし、都市計画上、農地に住宅は建てられません。群馬県と協議を重ね、住宅用地の確保に早急に取り組んでいきたいと考えております。

以上、上毛新聞には書かれない事柄を追加で説明いたしました。

今後も、町民の皆様が住んでよかったとと思っていただけるような「オールインワンのまちづくり」を目指して邁進してまいります。

令和7年6月30日

明和町長 冨塚もとすけ